

家庭でできる(てつがくdeどう説く)

目的

○発達段階に応じた「考え方を鍛える」ための親子の対話

自明と思われる価値や事柄と向き合い、理性や感性を働かせて深く考え、粘り強く問い続けたり、広く思いを巡らせ多様に考えたりすることを通して、民主的な社会を支える市民の一員として、創造的により良く生きるために、主体的に施行し、前向きに他社とかかわる市民性をはぐくむ。

価値内容

| | | | |
|------|---|--|--|
| 価値内容 | ① 自己にかかわるもの A 身近なこと (低学年向け) | ② 他者にかかわるもの B 今話題になっていること (中学年向け) | ③ 世界にかかわるもの C 歴史的・哲学的なこと (高学年向け) |
| 形式 | 広く→○○とは？ | 焦点化して | ○○はなぜ起こるか？ |
| テーマ例 | ・あいさつとは ・けんかとは ・勉強とは(なぜする?) ・宿題とは(なぜする?) ・友達とは、親友とは ・読書とは(なぜする?) | ・ゲームは何歳からOK? ・ユチューバー志望はOK? ・いじめとは ・ペットは幸せか ・仕事とは ・きまり(校則)は必要か | ・戦争はなぜ起こるか ・差別はなぜ起こるか ・科学の進歩は必要か ・生きるとは ・人間とは ・自由とは |
| | | | |

注意

- 討論形式で賛成と反対の2択で行う方法も盛り上がるが、発言力のある子どもだけの学習に偏りやすく、一般的な(教科書的な)価値観探しに陥らないようにしたい。いろいろな立場の意見が多数出て、共同体として異なる考えを尊重しながら探求を進められるように配慮するのが、理想的である。
- 言葉の前提条件をそろえたり、共通理解(みんなが納得できること)を途中で確認したり、思考実験(もし、○○だったらと考えてみると・・・)という方法も親のファシリテーターとしての役目であり、児童たち自身でも使えるようになると話し合いが深まる。